

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470800622
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会
事業所名	グループホーム そよ風
訪問調査日	平成 19 年 9 月 27 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 12 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1470800622		
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会		
事業所名	グループホーム そよ風		
所在地	神奈川県横浜市金沢区町屋11-16 (電話) 045-780-3106		
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成 19年 9月 27日	評価確定日	平成 19年 11月 12日

## 【情報提供票より】(19年7月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 3 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 5.8 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建て	階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,000 円	その他の経費(月額)	130,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (260,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80.9 歳	最低	66 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	総合病院湘南病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>事業所は、住宅街の一角にあり、近隣には区役所や公園、寺社、駄菓子屋がある。天気の良い日は、毎日のように近くにある公園や寺社、買物に行き、心身のリフレッシュを図っている。</p> <p>職員は理念に掲げている「安心と安寧に満ちた生活」の実現に向けて、入居者のペースや意志を尊重し、居心地のいい「自分の家」と感じてもらうよう、半歩後方から見守りと声かけによる支援をしている。</p> <p>町内会や地域の敬老会、行事等に積極的に参加し、地域との交流を図っている。</p>
--

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果は、職員に配付して指摘された課題の改善に取り組んでいる。その結果、サービスの維持・改善に必要な規程やマニュアル類を順次整備している。前年の改善課題であった「介護計画の定期的な見直し」も実践している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票の作成に当たっては、職員一人ひとりが業務に関連した項目を担当して、施設長が全体の取りまとめを行った。</p> <p>評価結果は職員全員に配付すると共に、運営推進会議に報告し、家族にも説明している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>8月末に開催した第1回の運営推進会議には、地域包括支援センターの介護支援専門員、町内会長、民生委員、利用者、家族が出席し、グループホームの運営方針と現状、並びに外部評価結果を報告し、今後の対応を含めて意見交換を行った。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見、苦情や不安については、家族の面会時を利用して話し合っている。玄関には、苦情相談に関する事業所内外の相談窓口を紹介したポスターを貼り、また、ご意見箱を設置している。苦情対応マニュアル、苦情受付報告書の様式を整備している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>生活保護受給者を受け入れていることもあり、区役所担当者に問い合わせや相談をするなどして、密に連絡をとっている。</p> <p>地域の町内会の総会や、敬老会に積極的に参加して、地域の一員として活動している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、地域に密着した事業所独自の理念である「安心と安寧のある生活、地域の皆さんと共に気配りと心のこもった触れ合いを大切にする」を掲げて、その実践に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念を玄関に掲示し、毎朝のスタッフミーティングと、4～5か月ごとに開催する職員会議で、施設長が理念を説明し、職員自身で考えるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の総会や、地域の敬老会に積極的に参加している。 地域の行事に関する資料を収集すると共に、行事には利用者が職員と一緒に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員に配付すると共に、家族に説明し、また運営推進会議でも報告している。 なお、具体的な改善課題で、事業所内での改善が困難な事項は、同一法人のグループホーム3事業所で連携して対応している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	8月31日に地域包括支援センターの介護支援専門員、町内会長、民生委員、利用者、家族が参加して、第1回の運営推進会議を開催し、事業所の概要、運営方針、外部評価の結果を説明して、意見交換を行った。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所が区役所から近く、生活保護受給者も入所しているため、区役所の担当者とは、密に連携を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族との面談時に利用者の近況や、職員の異動状況を説明し、家族の相談に応じている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時に、家族の意見、苦情を聞きだすようにしている。 なお、玄関には苦情相談に関する事業所内外の相談窓口を紹介したポスターを貼り、また、ご意見箱を設置している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動時には、利用者・家族に挨拶をして、また、後任者への引継ぎを徹底している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協会や、県や市の研修の機会を利用して、職員を派遣して介護サービスの質の向上を図っている。 研修報告書は職員に回覧して、情報を共有化し、研修記録をまとめている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会に加入しており、協会を通じて、また同一法人のグループホーム3事業所で連携し、情報の取得とサービスの質の向上を図っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に、本人・家族に事業所を見学してもらい、納得の上で入所してもらっている。また、入所後も利用者がホームの生活に早く馴染めるように、職員の見守りと声掛けを徹底して、支援を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の能力を積極的に活用してもらう機会として、食材の仕入れやスーパー・駄菓子屋での買物に職員と一緒に出向いている。</p> <p>他に、食後の下膳、洗濯ものたたみなどの役割を担ってもらっている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所前のアセスメントで、本人の希望や意向を把握し、介護サービスに反映させている。居室の前にある事務室のドアを常に開放して、利用者とのコミュニケーションがいつでも図れるよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入所前のアセスメントの結果、利用者や家族の希望や意向を把握して介護計画書に反映している。介護計画書には、家族の記名と押印がある。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画書の見直しの頻度は、基本的には6か月に1回であるが、利用者の状況の変化や要介護度の変更時には、家族と話し合い、随時見直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の他の事業所と連携し、情報交換やサービスの提供を図っている。同一法人が運営する病院での受診支援をしているほか、施設長が大型自動車運転免許を所有しており、外出支援としてドライブだけでなく、利用者の通院の際に活用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望を大切にし、今までのかかりつけ医を継続している方がいる。かかりつけ医のほか、同一法人が運営する湘南病院での受診支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、ターミナルケアを行わないことを家族に説明して、了解を得ている。 介護度が高くなりホームでの生活が困難と判断した場合は、特別養護老人ホームを紹介している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議や毎朝のミーティングで、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応について話し合っている。個人情報の取扱いについては、規定に基づいき対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外は、本人の時間を大切に自分のペースでの生活を尊重している。天気のいい日は散歩に出かけており、時には参加したくない方には、ベランダで外気浴をしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立決めの際は、利用者の声を聞いて「食べたいもの」をその都度作り、日によっては、利用者と一緒に食材の買物に出かけている。利用者は下膳やテーブル拭き等の後片付けに自主的に参加している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日置きで、午前か午後のどちらに入るか声をかけ、その都度決めてもらっている。全員がそれぞれ希望の時間、入浴の仕方ですくしく過ごしてもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員と一緒に、利用者全員の洗濯物たたみを毎日手際よく片付けてくれる方がいたり、居室を掃除するなど利用者の経験と能力に応じて役割を担ってもらっている。ビデオを見るなど個人的な楽しみごとを、利用者ごとに機会を作るよう配慮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所にある3軒のお寺を順番に廻るのが、毎日の散歩コースとなっており、常時6割ほどが参加している。買物に職員が付き添い見守り、可能な方にはお金を渡して一人で支払いまでしてもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵がなく、玄関は夕方まで施錠していない。居室入口の前にある事務室も、常にオープンにしてあり、職員は利用者が通りがかる際に声をかけて、さりげなくコミュニケーションをとっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署から定例の指導を受けている。平成18年度は避難訓練、火災訓練を各1回行っており、今年度も実施する予定である。避難経路は2箇所あり、各階に消火器と自動火災報知器を設置している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの摂食状態を記録し、様子を見ながら、献立や調理法に反映している。 夏場には、大きな水筒を用意して自由に飲んでもらうようにしている。又、便秘がちの方もいるので、野菜ジュースを出来るだけ飲んでもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、明るく騒音や異臭も感じられない。利用者の作品や行事の写真が適度に飾り付けられ、整理整頓が行き届いている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に持込品のリストを提示し、馴染みのものを出るだけ持ち込んでもらっている。居室内は、その人らしい雰囲気作りが自由になされている。また、すべての居室に、事業所が用意した座り心地の良いソファを2つつ置いており、家族の来所時等に活用してもらっている。		



## 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

### 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

### 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

### 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム そよ風
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市金沢区町屋町11-16
記入者名 (管理者)	管理者 加藤 健二
記入日	平成 19 年 7 月 29 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です )

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念のほかに、介護姿勢も掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念の持つ意味はなにか？」職員一人一人が考え実践している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる			8月下旬に予定している運営推進会議で地域の皆様にお知らせしたい。また、より多くの方々に理解していただけるよう取り組みたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出時や建物外で活動しているときは、気軽に挨拶や会話などをするように心がけている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会総会や行事(敬老会)等に積極的に参加している。		

グループホームそよ風

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>8月下旬に予定している運営推進会議で当施設が地域のために役立つことは何か、十分に話し合いたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>外部評価の結果は、真摯に受け止め、当ホームにとどまらず、法人内の事業所とも結果を共有し、法人全体で改善できるように取り組んでいる。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>8月下旬に第1回の運営推進会議を予定。今回の会議では、会議メンバーへの当ホームの概要の説明、方針等の説明の他、今後町内の一員として事業を行っていくことに理解を求めたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>法令順守を第一に取り組むためにも、小さなことより不明な点は横浜市役所、金沢区役所の担当者に質問をし、法令順守のもと入居者へのサービスへとつなげている。</p> <p>現在までの入居申込から生活保護受給者の申込が多い。生活保護の指定取得しているので、生活保護受給者も積極的に受け入れていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>成年後見制度の研修に参加し、入居者・家族には成年後見制度の活用を説明しているほか、現在の制度を活用している方については入居者の状況を後見人等に報告している。</p> <p>地域権利擁護事業や成年後見制度について今以上に研修等で理解を深め入居者を守るべく研修に参加していきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>職員会議にて研修の機会を持つほか、法人本部からも虐待については指導がある。職員には、会議や資料を通じ高齢者虐待について理解を深めている。</p> <p>虐待について事例等でより一層の理解を深めていきたい。</p>

グループホームそよ風

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前の訪問面接、契約時と最低でも二度の説明と話し合いを行うようにし、入所にあたり本人・家族の心配や不安を少なくするよう努力している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の意見・不満・苦情は、毎日のミーティングの中で議論され、内容は家族の皆さんに必ず報告している。</p>	<p>入居者がどの職員にも意見・不満・苦情を気軽に打ち明けられる関係を気づけるよう努力していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族・関係者の面会時に入居者の様子や健康状態を必ず報告している。また、入居者個々の金銭出納帳を確認、書名をして頂いている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>行事において職員との交流を深め、気軽に家族の置かれている状況のほか、当ホームに対する意見・不満・苦情を明かせる機会を設けている。</p>	<p>家族・関係者の皆さんが当ホームに気軽に意見・不満・苦情が表明できる関係作りを職員一同努力していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日のミーティングを行い、職員から入居者に関すること、業務に関する話を話し合える機会を持っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>さまざまな相談や要望に対応するため、勤務の調整をしている。また、予測される事態には、あらかじめ対応できるように勤務割をしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>平成19年4月～7月 退職者、異動職員なし。</p>	

グループホームそよ風

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>OJT、OFFJTなど育成プログラムはまだできていない。グループホーム連絡会等の研修会や法人内の研修会にとどまっている。</p>	<p>各職員のスキルを見極め、目標を設定し、その目標に向かって努力できるような研修等を行い、各職員自身が成長を実感できる研修システムを構築したい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>提携病院が法人本部にあるため、医療スタッフとの会議や研修会で交流を図り、情報交換を行うことにより、関係を深めている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>忘年会の開催、納涼会の参加等の機会を設けている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>誕生会や年末年始など職員の人生の経験が役に立つ行事を計画することにより、職員も楽しく張り合いを持って働けるようにしている。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人、家族等、担当ケアマネ、行政機関から情報収集するよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>同上</p>	

グループホームそよ風

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	同上		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入所前に本人、家族に当ホームを見学し、納得した上で入所していただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	本人の生活リズムを第一に考え、支援しなければならないことを見極め、サービスを提供するようにしている。		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	入居者本人を家族が介護できず、グループホームに入所することは理由があり、家族にとっても背景がある。それを十分当ホームが受け止めることがとても重要と考えている。		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	家族の背景は、本人を理解する上で非常に重要な事柄と当ホームでは考えている。その内容を十分理解することによって、職員の接し方、会話の内容も変わってくるため、本人の身体理解と同等に重要な内容として捕らえている。		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	かかりつけ医等本人がかかわっていることを続けられるように配慮している。		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	毎日の散歩やリハビリ体操など、入居者がともに楽しめる時間を設けている。		

グループホームそよ風

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			さまざまな理由で退所されるが、他では打ち明けられない相談は、積極的に受け、今までの関係を大切にしたい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を第一に検討している。また、家族からの情報や希望も必ず考慮している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のサービスの利用状況も本人を把握する上で必ず情報を得ている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	施設側主体のサービスにならないように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族との話し合い、主治医からの情報、スタッフからの意見を反映し作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	スタッフからの情報や記録をもとに見直しを行い、変更の際は、家族とも十分に話し合うようにしている。		

グループホームそよ風

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の記録を作成し、24時間365日記録し、処遇につなげている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所内ではなく、法人内の搬送サービス通院時に利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会の行事(敬老会)や保育園の行事にも参加している。		民生委員、ボランティア、町内会の皆さんの協力を得て、入居者が社会参加できる機会を作りたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	通院時には、搬送サービスを利用し、安全な通院ができるようにしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			8月下旬開催予定の運営推進会議をきっかけに協力関係を築きたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人・家族等の希望のかかりつけ医を受診し、本人が納得できる医療を受けていただくようにしている。		



グループホームそよ風

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携病院の精神科が受診できるようにしており、診察の他担当医からさまざまな指導を頂いている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			法人内の訪問看護ステーションや地域の訪問看護ステーションとの協力関係を構築したい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	小さな変化も見逃さないように担当医から指導を受けるとともに、変化があった場合にはすぐ受診できるよう連絡を取っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時より、重度化した場合に備え、特養等の申込みを勧めている。また、手続き等の情報も家族へ伝達している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	同上		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	同上		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉による虐待とならないよう、虐待に関する研修会を行うとともに、入居者一人一人の自尊心を傷つけない声かけを行うようにしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>最終的な判断を下すのは、入居者本人にさせていただくように支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>当ホームの方針・やり方はあるが、全てを当ホームを優先するのではなく、入居者・家族との話合いで、本人のペースを第一に過ごしていただいている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理美容については、町内の美容室の配慮で1回500円で、本人の希望に合わせて、仕上げてもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備は、職員中心で行っているが、片付けは入居者にも参加していただいている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>禁酒、禁煙としている。飲み物やおやつは、入居者の希望に合わせて用意している。</p>	

グループホームそよ風

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンチェック表を活用し、タイミングを把握するように努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴を基本としているが、本人の希望等で柔軟に対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人一人の習慣や生活リズムを大事にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食後の片付け、掃除、買い物など本人が興味を持ち、自ら進んでできることを見つけ出し、張り合いのある生活が送れるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入したいものがあれば、職員と買い物に出かけるなど自由に購入できるようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の近所のお寺までの散歩、建物周囲の植木の水やり、食材の買い物へ出かける機会を設けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個人的な買い物や通院の機会を利用し、喫茶店など普段行くことができない場所へ出かけたりしている。		

グループホームそよ風

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を掛けることとしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	個人情報に配慮しながら、入居者本人の馴染みの人たちの面会は、いつでも可能としている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会を法人本部が実施し、参加者が職員に伝達している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけないようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の行動パターンを把握し、単独でいる時間が長い場合は、本人の様子を確認するようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人・家族と相談し、入居者本人がわかりやすく、かつ生活しやすい部屋作りをしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬管理、危険物・薬品の取扱いの他、入居者の金銭の扱いについてもマニュアルを作成し実施している。		

グループホームそよ風

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設内での研修は、実施していない。		外部の研修会等に参加し、資格取得を目指したい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			避難訓練、消火訓練等災害訓練を近隣の方々と行い、お互いの理解と協力の働きかけをしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族面会時に本人の状態の報告の他、その時に考えられるリスクを説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化を発見した時は、管理者へ連絡・報告し、指示を受けることとなっている。また、救急対応が必要なときは、提携病院の湘南病院に搬送することとなっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の処方薬説明書がいつでも見られる場所にあり、すぐ確認できるようになっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄パターンチェック表を参考に水分摂取、運動、入浴等で、便秘防止に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じて、歯磨きの際見守り、介助を行っています。		定期的な検診を実施したい。

グループホームそよ風

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態、嚥下状態など入居者本人のそのときの状態に合わせた食事作りや水分摂取の方法を考えている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	衛生管理研修会の報告と資料を参考に感染症防止に取り組んでいる。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材に関しては、新鮮なものを使用することとし、買いためは基本的にはしないこととしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲には鉢植えなどの草花を置き親しみを持てるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には、各場所が入居者に分かりやすいように、整理整頓に心がけるようにし、生活感を出すようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、テーブルの他ソファでくつろげるようにしている。		

グループホームそよ風

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、本人の使い慣れた家具や寝具等を持ってきていただくようになっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	雨が降っていないければ、居室の窓はなるべく開けていただき、換気していただくよう、入居者のみなさんに協力していただいている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、トイレの手摺り、階段昇降機の設置の他、居室内は入居者本人が認識しやすいようなレイアウトとしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各入居者のタンスやクローゼットの中の整理は、なるべく自分自身で行っていただき、身の回りのことは責任を持って行っていただくようになっている。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周囲の鉢植えの水やりのほか、ベランダではスタッフとともに洗濯物を干したり、取り込んだりしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



グループホームそよ風

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日の近くの神社、海、公園などへの散歩を日課とし、入居者一人一人の歩行状態の維持に努めている。また、日課としている散歩により、入居者の食欲増進、便秘の防止、規則正しい生活リズム作りのほか、なにより入居者自身の表情が明るくなった。また、入居者が、外出することをとても楽しみにされるようになり、希望を持って生活できている。たとえ、近い場所であっても、どんな目的であっても、毎日の外出を心がけたい。

入居者の「安心を安寧に満ちた生活」を支援するためには、職員自身も充実した生活が必要不可欠と考えられ、無理のない勤務体制、信頼しあえる人間関係作り、介護のスキルアップのための研修体制の構築に取り組んでいきたい。